

大切な飼い犬を迷子にさせないために！



常陸大宮市では毎年多くの迷い犬が保護されていますが、飼い主の方から連絡がなく鑑札や迷子札も着いていないため、飼い主の元へ帰れない犬がいます。家族の一員である大切なペットを守るため、下記のことにご協力ください。

迷子にさせないために！

- ◆首輪がゆるんでないか、鎖が古くなっていないか、定期的に確認しましょう。
- ◆鑑札や注射済票を着けましょう。
鑑札や注射済票が着いていれば、市役所で保護した時飼い主が分かります。また、一般の人が保護した時のために迷子札も着けましょう。



▲迷子札を着けていれば迷子になっても安心

もし迷子になったら…

- ◆そのうち戻ってくると考えずすぐに探してください。犬は毎日移動します。日がたつにつれて離れて行ってしまいます。また、事故に遭う可能性もあります。
- ◆市役所環境課、各総合支所及び茨城県動物指導センターへご連絡ください。保護されているかもしれません。また、何か情報があるかもしれません。

●●● 連絡先 ●●●

- 環境課 ☎52-1111 (内線123)
- 各総合支所市民福祉課
山方 ☎57-2121 美和 ☎58-2111
緒川 ☎56-2111 御前山 ☎55-2111
- 茨城県動物指導センター ☎0296-72-1200

健康 通信

常陸大宮済生会病院
副院長
小島 正幸先生

「男性更年期障害について」

全身の疲労感や意欲の減退、ED（勃起障害）など、これまで「年齢のせい」と片付けられてきた中高年男性に特有の心身の悩みが、男性更年期障害としてマスコミで大きく取り上げられるようになり、社会に浸透してきました。

原因は様々で、糖尿病やうつ病などによる場合もありますが、加齢によるアンドロゲン（男性ホルモン）の低下によるものを加齢男性性腺機能低下症候群（LOH症候群；ローショウコウゲン）と呼ぶようになりました。

男性ホルモンは20歳代にピークを迎えてから徐々に低下していきますが、海外のデータでは、40歳代の2～5%、70歳代の30～70%で男性ホルモンの低下を認めています。（女性では50歳前後で閉経があり、卵巣機能がいちように低下するのと大きく異なります）

平成19年に、泌尿器科学会・日本メンズヘルス医学会が共同で、「加齢男性性腺機能低下症候群（LOH症候群）診療の手引き」を作成しました。これによると、LOH症候群は男性ホルモンが一定の基準値以下に低下して起こる様々な多臓器の機能障害を伴う疾患と定義されていて、症状、徴候は以下のものです。

- (1) 性欲と勃起能の質と頻度、とりわけ夜間睡眠時勃起の減退
- (2) 知的活動、認知力、見当識の低下及び疲労感、抑うつ、短気などに伴う気分変調
- (3) 睡眠障害
- (4) 筋容量(MRI等で筋の断面積を測定したりして計測)と筋力低下による除脂肪体重の減少
- (5) 内臓脂肪の増加
- (6) 体毛と皮膚の変化
- (7) 骨減少症と骨粗鬆症に伴う骨塩量の低下と骨折のリスク増加
(骨量が、20歳代～40歳代前半の平均骨量の70～80%の場合を骨減少症、70%未満の場合を骨粗鬆症という)

40歳以上でこれらの症状が男性ホルモンの低下によるものであれば、補充療法で改善する可能性があります。



※茨城県内では筑波大学附属病院泌尿器科に男性機能外来があり、男性更年期障害の診療が行われています。受診は予約制です。予約センター（☎029-853-3570）に電話してからお出掛けください。